

「ありがとう」のリレー

山 添 正 広

六年最後の夏休み。ぼくは、電車に乗って塾へ通うことをしていました。電車通学初日、電車の中はたまたま混んでいました。ぼくは座席にすわれましたが、ぼくの前にはおじいさんが立っていました。ぼくは、

「座席をゆずった方がいいのかな」と迷っていました。そしたら隣の大学生ぐらゐの人が、おじいさんに席をゆずりました。ぼくは、席をゆずれなかった自分に腹が立っていました。そして、自分が恥ずかしくなりました。

「おじいさん、おばあさんに席をゆずるのは、素晴らしいこと」と言いますが、いざとなると、なかなかすることはできません。だから、隣に座っていた大学生の人はすごいなと思います。

ぼくは、こういう事には、決してにぶい方ではないと思います。でも、なぜ、気づいていたのに、できなかったの

でしょう。それは、自分に「勇氣」がなかったからだと思います。「勇氣」があれば、おじいさんに席をゆずれたと思います。

その日からしばらく、混んでいる電車はありませんでした。でも電車通学を初めて二週間後、また混んでいる電車になりました。すると、ぼくの目の前に、おじいさんが立っていました。また心の中で迷いました。座っていたい気持ちもあつたし、おじいさんに席をゆずりたい気持ちもあつたし、緊張する気持ちもあつたし、いろいろと迷いました。

すると、迷っている内に、かっぺに体が動いて、「どうぞ」と席をゆずれました。すると、おじいさんはにっこりと笑って、「ありがとう」

「ありがとうでございます」

と言いましたが、席にはすわりませんでした。すると、にんぷさんは、またとなりにいた、5歳ぐらゐの男の子に席をゆずりました。男の子は、ずいぶん遠くから電車にのっけていて、ずっと立っていたのでしよう。だからとてもえらそうでした。その男の子も

「ありがとう」

と元気な声で言つて、ちよこんと座りました。それから、目的の駅までずっと立っていました。足が痛かったけど、あの日のうれしさは、いまでも忘れません。思いやりは、幸せになつてかえってくることをあの時、実感しました。

また、あの時、席をゆずれて本当に、よかつたなと思います。

人に思いやりのできる、そんな人間は、とてもカッコイイ人です。ぼくも、そんな人間になりたいです。